

- (2) 期日・会場
- ① 期 日 昭和58年8月23日(火)
- ② 会 場 保原町中央公民館
- ③ 参 加 者 学校教育関係者、社会教育関係者、その他国際協力活動関係者 122名
- (3) 内 容
- ① 主 題 「ユネスコ活動の充実と組織拡充のあり方を考える」
- ② 講 演 「最近の国際情勢とユネスコ活動の動向」  
文部省学術国際局ユネスコ国際部企画官  
野 口 異
- ③ 研究協議
- ア 分散会……3分散
- イ 協議事項
- ⑦ ユネスコ活動を見直し、今後の活動のあり方を考える。
- ⑧ ユネスコ協会への加入促進と未組織地域の組織化を考える。
- イ 助言者
- ⑦ 第1分散会  
日本ユネスコ協会連盟中央委員内 山 邦 夫  
白河ユネスコ協会顧問 水 戸 金 正
- ⑧ 第2分散会  
福島ユネスコ協会組織委員会会長  
松 井 和 夫  
郡山ユネスコ協会事務局次長 井 上 春 郎
- ⑨ 第3分散会  
会津ユネスコ協会運営委員長 周 東 一 也  
いわきユネスコ協会副会長 菅 波 ミノル
- イ 全体会……分散会の報告とまとめ

#### 4 国際交流活動研修会

- (1) 趣 旨  
教育・科学・文化の分野における国際交流活動の意義を広く県民に普及・浸透させるとともに、国際交流活動を振興するうえで大きな役割を果たす指導者の育成に資する。
- (2) 期日・会場・参加者
- ① 期 日 昭和58年11月29日(火)～30日(水)
- ② 会 場 白河市中央公民館
- ③ 参 加 者 学校教育関係者、社会教育関係者、国際交流事業関係者 129名
- (3) 内 容
- ① 主 題 「国際理解・国際交流活動をどのように進めたらよいか」
- ② 講 演 「国際友好と日本の立場」  
福島女子短期大学教授 辺 見 正 治
- ③ シンポジウム・フォーラム  
「国際理解・国際交流の進め方を考える」
- 講 師
- ・国際ロータリー第253地区青少年交換小委員会委員長 宮 森 久 治
  - ・飯館村カンボジア難民を救う会代表佐 藤 信 明
  - ・須賀川市立第二中学校長 内 山 邦 夫

- ・白河市婦人団体連絡協議会会長 高 野 美 智
- ④ 研究協議
- ア 「学校教育の中で国際理解・国際交流活動をどのように進めたらよいか」  
助言者  
白河市立第一小学校長 水 戸 金 正  
白河ユネスコ協会会長 柳 沼 和 夫  
県教育庁県南教育事務所指導課長坂 本 迪 郎
- イ 社会教育部会  
「地域社会の中で国際理解・国際交流活動をどう進めたらよいか」  
助言者  
県ユネスコ連絡協議会事務局長 大 越 源三郎  
白河市中央公民館長 佐 藤 幹 雄  
県教育庁県中教育事務所社会教育主事 金 沢 隆 夫
- ⑤ 事例発表
- ア 「学校教育における国際理解・国際交流活動の現状と課題」  
福島市立森合小学校教諭 鐵 貞 雄
- イ 「民間における国際理解・国際交流活動の現状と課題」  
会津ユネスコ協会事務局長 結 城 孝一郎
- ⑥ 教材映画視聴  
「褐色の風土」 —第四世界からの報告—

## 第5節 家庭教育

### 1 概 要

今日の社会的諸条件の変化は極めて大きいものがあり、親にとって家庭教育をよく理解し、日常の家庭生活の中で実践してゆくことがますます重要となっている。

このため、家庭教育に関する学習の機会をもうけるとともに、その内容・方法について工夫改善に努めた。また、家庭・学校・地域の連携により一層学習の充実を図った。

まず第一に家庭教育学級では、1小学校区1学級の開設を目標とし、特に、青少年の健全育成の上から、中・高校生の子どもをもつ親を対象とした学級の増加に努めた。

また、家庭教育研究集会を開催し、学習の内容と効果的な学習の進め方について研究協議を行い、家庭教育学級の充実を目指した。

第二には、家庭教育(幼児期)相談事業を実施し、県内の3歳第1子を持つ親を対象として、はがき通信・巡回相談・テレビ放送を行いその効果を上げている。また、幼児後期の子どもを持つ親のために学習資料の提供を行ってきた。

第三には、家庭教育調査研究事業を実施し、今日の家庭教育上の課題を分析検討した。その結果を家庭教育資料としてまとめ、関係機関に配布し、その活用を図った。

### 2 家庭教育研究集会

- (1) 趣 旨  
家庭教育に関する学習の機会を拡充し効果的な学習を進めるための具体的な方策について研究協議を行い、家庭教育の振興を図った。
- (2) 主 催 福島県教育委員会・白河市教育委員会